

2024 年 7 月 10 日

学校法人三幸学園
札幌スイーツ&カフェ専門学校
校長 工藤 高司 殿

学校関係者評価委員会
委員長 金子 好古

学校関係者評価委員会実施報告

2023 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 金子 好古（株式会社ケン・ホテルマネジメント札幌中島公園）
- ② 高橋 奈妙（飛鳥未来高等学校札幌キャンパス キャンパス長）
- ③ 石川 琴音（第 10 期卒業生）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2024 年 7 月 10 日（会場 札幌スイーツ&カフェ専門学校 601 教室）

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2023 年度 学校法人 三幸学園 札幌スイーツ&カフェ専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 古宇田 圭一

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 金子 好古

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、製菓・調理分野の学校として「美味しくてかわいいスイーツと・カフェを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、製菓・調理分野として「美味しくてかわいいスイーツ・カフェを通じて、時間と空間をトータルプロデュースし、人の心を豊かにする人材を育成する(全ては、お客様の笑顔とありがとうのために)人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・退学率(2 学年合計の退学率 5%以下を目標とする)

→2022 年度退学者の内、「精神的疾患」「目標喪失」「人間関係」という理由の割合が高かった為、

以下の施策を立て実行した。結果的に 2023 年度は退学率を 2022 年度と比較し改善することができた。

- ア) 学年ごとにチーム担任制として、複数の教員が担任として HR や行事に各クラスに関わり、相談しやすい環境を提供した。(生徒によっては、担任が固定となると相談しにくいという声もあったため)
- イ) 学校生活や進路指導などの面談について、担任だけではなく、複数の教員で対応する機会を多く設けた。また、学生サポートルームのカウンセラーの方にも協力いただき、生徒一人一人にあった丁寧な対応をした。
- ウ) 直接悩み相談をしにくい層に向けて QR コードから悩みをヒアリングできる環境を作り、学校生活への懸念を吸い上げる機会を設けていた。

② 学校関係者評価委員会コメント

【高橋委員】

高校では、人間関係以外に、大人との人間関係の構築や授業の受け方など、生徒の悩みも多岐にわたる。今年度より、なんでも相談室(予約制)を開設した。今までのような人間関係の悩み相談はもちろんあるが、時間割の見方などオリエンテーションで伝えている内容がわからないままの生徒のちょっとした困ったことも質問として挙がる。生徒一人一人に合った相談の窓口として活用できている。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- ・社会経済のニーズを踏まえた学校の将来構想

業界のニーズは目まぐるしく変化している為、現状の業界動向・社会経済のニーズを把握し、将来構想を抱く必要がある。

② 今後の改善方策

- ・就職先や実習先の企業訪問を通して接点を増やすことで各企業の抱えている課題やニーズにおける動向を把握する機会を設ける。
- ・外部との産学連携の機会を積極的に設け、積極的に外部の方との連携を図っていく。
- ・全ての職員を対象とした業界関係者による講話機会を増やす。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【金子委員長】

ホテルでも離職率が課題としてはある。企業と学校の共通部分として、本人の立ち位置、存在意義を認める機会、そして評価をするという3つのポイントが定着率として大切なポイントとなる。仕事のやりがいを感じてもらうためにも、ほめるポイント、指導や注意するポイントが大切。学生1人1人に対して丁寧な対応が救い上げられるものと考えていく必要があると思う。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・情報のシステム化による業務の効率化

業務内での生成 AI や web テストなど一部活用がみられるが、まだまだアナログなところもあるため、より一層情報システムによる業務効率を図る必要がある。

② 今後の改善方策

- ・生成 AI の活用については、昨年度教職員へ活用事例を紹介する機会があったものの、具体的な操作方法についての勉強会を行うなど、具体的な活用方法をイメージできるように実施していく。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【高橋委員】

Giga スクール構想の影響もあり、全員が一人1台 Tablet 端末を使用しているので、高校でも導入している。プリント配布もペーパーレス化して Google 系のアプリを使用し配布している。通信活況によりうまく動かし切れないなどの懸念もあるため、アナログでの対応を継続している高校の教員もいる。生徒の考え方も変化しつつあり、先生によって使用する教材、アプリが違っているなどの混乱も多少なりとも起きている。

【金子委員長】

元々アナログ体質は強いが予約システムを取り入れるなど、現場でも活用に取り組んでいる。長年勤務している職員を中心に現場からは戸惑いもあるが、アナログとデジタルを併用して徐々に進めている。

【石川委員】

専門学校在学時はパワーポイントの投影などは新鮮であった。もともと高校の時は黒板での板書が中心の授業がメインだったため、今の高校2年生の話を聞くと私でも少し感覚が違うと感じた。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ・職員の能力開発、教員の指導力育成など資質向上のための取り組み
一人一人の教員の指導に対する認識の統一や授業内容向上に向けた取り組みや効果を向上させるために、改善の必要がある。

② 今後の改善方策

- ・教員間の連携強化のため、ミーティングの機会を例年よりも増やし、教員間の学び支えあう機会の創出。
- ・授業アンケートを教科チーフと教科担当に共有し、一人で課題を抱え込まず、どう改善していくかを複数のアイデアを引き出せる機会の創出。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【石川委員】

友人にも人間関係で悩んだ人もいた。校舎内に QR コードで相談できるなどの取り組みは実際に救いになっていたと感じる部分もある。人間関係は徐々に変化していき、生徒同士の問題だからという理由で先生に相談しにくい人もいた。相談しやすい環境づくりは継続していただけると後輩たちは助かると思います。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
就職率の向上が図られているか	2
資格（免許）取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・就職率は2022年度と比較し、課題が残る結果となった。卒業後の内定者も含めたフォロー体制も含めて、就職指導の流れや向き合い方に関して課題だと考える。
- ・資格取得率は受験者に対する合格率は向上したが、当日の出席率に課題が残った。全員が出席し、検定に対して前向きに向き合えるような仕掛けをしていく必要がある。
- ・退学率低減は昨年度より改善が見られた。ただ、休学者数が増えたため、2年間での卒業ではない層が増えているため、多様な学び方や仕組みが課題である。
- ・卒業後の支援として卒業生の独立希望者に対するフォローに対して可能な範囲でできることがある。

② 今後の改善方策

- ・学校単独で企業説明会を実施し、より企業と生徒のマッチングができるように体制づくりをしていく。
- ・資格取得に対する意識付け方法の統一や対策期間の取り組みの確立。
- ・カウンセラーだけではなく、スクールソーシャルワーカーとの連携を強化し、多様化する生徒に対する提案ができるような環境を整備していく。
- ・卒業後の支援として、独立開業を考えている卒業生に対して、独立セミナーや説明会、授業がないタイミングでの実習室利用案内など、できることを卒業生向けに発信していけるように整備していく。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【石川委員】

資格検定はとらなくてもという声が生徒間であがることがあった。生徒が目指している資格が将来に役立つことを伝えて受験への動機づけを行うとよりよくなると感じる。また、希望を持った人が続けられるように周りの頑張っている姿を見る機会を設け、刺激しあう関係性を作れたらいいと思う。

【金子委員長】

新卒として当校の卒業生が関わることがあり、今も活躍してくれている。採用した卒業生は活躍してくれているので、気になることは特にないが、一般的には社会とのギャップを感じて退職する職員も見えてきた。そのため、専門学校に特別授業とかいった際には、現場目線での楽しさだけではなく、大変さなどもしっかりと伝え、社会人になった際に少しでも長く勤められるような話を今後も継続していきたい。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

・就職支援

全国の姉妹校の求人含めて、視野が広がるような支援ができているが、一人一人に合わせたサポートや生徒の動機づけ、受け取り方については改善の余地がある。

・卒業後に関して就職未決定の卒業生や申し出のある生徒には支援を実施しているが、それ以外の卒業生には支援がまだ不十分である。

・中途退学者への支援体制について、現状は有効な対策が実施できていない。

② 今後の改善方策

・SNS など公式のアカウントを中心とした情報共有方法の確立。

卒業生が働いている企業先のアルバイト求人情報を学校へ共有するなど、学校側からの発信だけではなく、双方向のやり取りができる仕組みづくり。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【石川委員】

先日も卒業して勤めている友人と再会したが、ギャップにより悩んでいる。日ごろの返事の大切さや、先生方が言っていたことが改めて大切だと実感することがある。学校で社会の厳しさも含めて話を聞いていたが、教員だけではなく、卒業生や業界関連の方などいろいろな角度から話を聞く機会があれば、多くの生徒に伝わった。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・実習先の選定に向けて、生徒の視野が広がる様な働きかけや仕組みなど、改善の余地がある

② 今後の改善方策

- ・飲食に絞ったマッチングアプリをインターンシップ実習先として登録できるようにし、複数の飲食店での実習が可能となるよう整備。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

【金子委員長】

実習など現場経験などは時間や食材に対する意識がプロになるために大切なことだと受け入れた際に伝えてい
る。ネガティブにとるのではなく、プロとして一歩踏み出せるようにサポートしている。

(7)学生の入入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・特になし

② 今後の改善方策

・特になし

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・特になし

② 今後の改善方策

・特になし

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

- ・こども食堂など飲食業界の専門学校としては、まだまだ改善の余地がある。

② 今後の改善方策

- ・支援施設などに実習で作成した料理やスイーツの過剰な分を提供できるような仕組みを作り、社会貢献と食品ロスを同時に取り組めるような活動を積極的に取り組んでいきたい。

③ 特記事項

- ・特になし

③ 学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

この業界に興味を持って入学した生徒たちが志を持ち続けながら現場で活躍できるよう、昨年度は主に就職率を上げることと退学者を防ぐこと、コロナ禍という時代背景があるため、産学連携など行事以外の取り組みを増やし、生徒が活躍できる場を増やすなどの施策を実施した。

この学校関係者評価委員会で頂いた意見を基に、現場のニーズを知る機会を増やし、それを生徒に伝達することで早い職業観の醸成、またその就職先で貢献できるよう基本的な技術を身に着けるための教員間の指導技術統一を今まで以上に意識し、次年度の計画に繋げていく。

今後も、更により良い教育を提供できる学校であり続けたいと考えている。